

船井情報科学振興財団 ポスドク報告書

森亮

ローレンスバークレー国立研究所/カリフォルニア大学バークレー校に所属していました森です。ポスドク生活について所感を報告します。

1. 追加実験

いきなりですがタイトルの通り、論文に追加するデータをとるために新しい実験をしなくてはならない状況になりました。正直やりたくない。新しく測定系を作らなきゃいけないし、使ったことない装置も関わってくるし、いや本当にやりたくない、どっちかっていうと今は部屋掃除したりとかそういう家事をしたい（こういう場面で家事をしたくなる現象はなんなんだ）。本当にやりたくない！という気持ちをグッと我慢して、せつせとラボ通いを始めました。

教授から頻繁にくる「実験どう？」「進展あった？」というメールにウンザリしながら（もちろん鋼の心で無視）、「（え？めんどくさいんだけど…）」と顔に書いてある気乗りしない同僚達にも協力してもらいなんとか数ヶ月間走り抜き、無事所望のデータがとれました。辛かった。

とまあそうこうしていると、胸元になんとか違和感を覚え始めました。なんだこのピリピリする新しい感覚は…？え、なにこれ、突然の胸毛の予感？それ第何次性徴なの？それとも何かの能力に芽生える前兆？などとワクワクしていたものの、その後それはかゆみと痛みを帯び出しました。目視するとなんだか見覚えのない赤いポツポツが我が物顔で片乳にチラホラと蔓延っていました。

ベテランネットサーファーの私です。ここぞとばかりに症状と画像をググりまくった結果、どうにもなんだか帯状疱疹っぽい。いやいやいや、帯状疱疹ってもっとこう 50-70 代で出るアレじゃないの？？数年前に母（60 代）が罹ったあの帯状疱疹にギリアラサーの若造がかかるわけないだろ、母ちゃんの 60 年舐めん、と納得いかないまま念の為病院にいくと、それはもうバッチリ帯状疱疹でした。教科書通りの帯状疱疹だね！と言われ写真を撮られました（もちろん一応満面の笑みでうつりました）。

ストレスや疲労とかで免疫が落ちてると若くても発症するそうです。それもこれも全部論文のせいでしょうかね（前回参照）

（なお論文は後日無事アクセプトされました：[R. Mori et al., Nature 614, 249-255 \(2023\)](#)）。

2. 公募

ポスドクといえば公募！ということで、私の某ポジションへの公募体験記を雑に記そうと思います。日本の某大学の某研究室にて、助教の公募が出ているとの連絡をもらいました。その研究室は、（勝手に）尊敬している勢いのある先生の主催する研究室であり、環境的にもいい感じだという話も聞いたので、とりあえず応募してみました。「日本の大学って未だに応募書類を郵送で提出させたりして超遅れている！」といった海外出羽守達の日本への文句をよく聞いていた気がするのですが、この公募に関しては全てオンラインで書類提出は完了しました。ありがたや。

「公募 面接 どのくらい」みたいな感じでボンヤリとググっていると「書類通過の場合は一週間ほどで面接案内の連絡がくる」ということが言われており、その時点で既に2-3週間経過していた僕は、「あれ、すでにおちてね？(笑)」と笑っていたところ（強がり）、面接へ呼んでいただけるという旨のメールが届きました。ありがてえ。

ここでも「日本の大学の面接って、海外からでもわざわざ現地に（交通費自己負担で）こさせたりで遅れている！」といった出羽守達の文句をよく聞いていた気がするのですが、この公募に関してはオンラインで面接をしていただきました。

面接では、カメラに映る上半身部分はフォーマル、映らない下半身はパンツ一丁という、コロナ禍の作り出した半身半獣ことモダン・ケンタウロス・スタイル（MCS）で挑みました。みんなやってるMCS、なんならもしかしたら選考委員の先生たちもMCSだったかもしれません。比較的リラックスできると定評あるMCSですが、こういう面接においてはさすがMCSも効き目が悪く、嫌な汗をかきながらモゴモゴと研究プレゼンをこなしました。MCSで思い出しましたが、そういえば本家のケンタウロスってどうやって寝るんでしょうか、寝るには厳しい構造している気が、いやまあ関係ないですね。そんなこんなで意識朦朧で何を言ったのか思い出せない感じで面接は終わりました。

この辺りの時期は他でもなんだか忙しく疲労が溜まっていたことも相まって、面接後寝込んでしまったのですが、寝起きのボンヤリとした意識でメールを覗いたら内定通知がきていました。ラッキーでした。

その後は色々人生設計に迷ったり、諸々の事情があったりで色々悩んだのですが（中略）、とりあえず日本のアカデミアで働いてみようと思い、夏頃着任に向けて帰国準備を始めました。

3. さいごに

Ph.D.からポスドクまで、大体9年くらいアメリカにいたことになります。紆余曲折というか、本当に色々ありました。アメリカにいるのになぜかオンライン英会話を始めてみたり、研究室や専門分野変

えたり、メンタル病み過ぎて「聞くだけで集中力があがる」という謎の音源を買ってみたり（3000円くらい。もちろん効果は死ぬほど無かったです）、無駄に筋トレやランニングに没頭してみたり、実験やめて理論計算にはしってみたり、卒業するかなっていうタイミングでコロナ禍にぶつかったり、アレルギーで（文字通り）死にかけたり、車デビューしたら（文字通り）事故ったり、その他諸々とたくさん嫌な事があり、そして嬉しい出来事もたくさんありました。船井財団の方々はもちろん、多くの人々に助けられたアメリカ生活でした。圧倒的感謝です。

先日、諸事情により、2013年に慶應義塾大学で行われたアメリカ大学院留学説明会で自分が講演している動画（<https://www.youtube.com/watch?v=bi3Xuum-GL4>）を見る拷問のような機会がありました。動画中ではまだ何も知らない自分がペラペラとペラいことを語っているのですが、その中で「正解の選択肢を選ぶんじゃなくて、選んだ選択肢を正解にするように腕きましょう」みたいないい感じの呪詛を唱えていました。これが今になって超刺さる。というか直球で殺しにきてる。時を超えて自死するところでした。これって結局自分が納得できるように頑張れってことなんですが、それがどんどん難しく感じてきている今日この頃です。

最近はどうもなんだか人生が予測不能すぎて、何もかもわからないことが多くて、もう正解もクソもあったもんじゃない感じです。例えば一年前の自分は現在の自分を予想できたかという、全くできていなかったり。まさか自分が教員的なものになるとも思っていなかったし、日本に帰るとも思っていなかったわけです。きっと次の一年後はまた今では考えられないような何かが起きているのかもしれませんが。むしろ予測不能なことが起こり続けているということは、何か自分なりに踏ん張っている証拠なのかもしれません。そういう意味での不安定さを楽しみ続けて、納得できる人生にしていきたいもんですね。ということで明日も明後日もなんとなくゆるく踏ん張っていこうと思います。

さて、こうして駄文を公に晒す機会も、もしかしたらこれが最後かもしれません。長年に渡って自由になんでも書かせてくれた船井財団の懐の大きさには感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。

森 亮